

基本目標3 いきいきと暮らせる環境づくり

(1) 地域における交流活動の充実

現状と課題

- 誰もが支え合って生活していくためには、お互いを理解するきっかけとなる交流活動を推進していくことが必要です。
- 地域では、社会福祉協議会、自治会、民生委員・児童委員、福祉委員、ボランティア、NPO等の様々な主体が、地域の福祉向上のために活動しています。活動をさらに活発にするためには、他の団体等との連携も大切です。

施策の方向性

- 地域で人が集まり、コミュニケーションが図られることで交流の場ができるよう、地域の住民や関係団体等が行う取り組みを支援します。

期待される役割

◆ 個人や地域で取り組んでほしいこと

- 地域の集いや交流の場等に行ってみましょう。
- 誰もが活動に参加しやすい雰囲気づくりを、地域全体で作りましょう。

◆ 社会福祉協議会が取り組むこと

- 地域の実情にあった居場所づくりの定着に向け取り組みます。
- 地域の実情を把握し、課題の発掘、新たな地域活動の展開につなげます。
- 各種団体と連携しながら、地域における見守り活動や集いの場の普及に取り組めます。

◆ 町が取り組むこと

- 交流の場の開催に向け、自治会や団体等の自主的な取り組みを支援します。
- 公共施設の適正な管理運営を行うとともに、交流の場としての有効活用を検討します。

具体的な施策

施策名	内容
交流の場、居場所づくり	<ul style="list-style-type: none">◆ 高齢者の介護を行っている人や子育て中の保護者等、同じ悩みを抱えている人同士が交流できる場の充実を図ります。◆ 障がい者の居場所づくりの推進を図るため、日中活動を支援する取り組みを行います。◆ 公共施設を有効に活用し、気軽に立ち寄ることができる場づくりに努めます。

	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 交流拠点となる自治会公民館の整備や交流等の地域活動を支援します。 ◆ 福祉委員、老人クラブ等と連携し、気軽に楽しく、身近なところで参加しやすいサロン活動を実施します。
交流の機会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 障がい者の社会参加を進めるため、障がい者と学校や地域との交流活動を促進します。 ◆ 地域や各種団体と連携しながら、世代間を超えた交流とふれあいの場、地域住民が積極的に学びあう機会を提供します。 ◆ 地域とのつながりが希薄な人や地域活動に関わる機会が少ない人が参加しやすい交流の機会を設けます。

(2) 社会参加・生きがいつくりの推進

現状と課題

- 地域や社会とつながることにより孤独や孤立を防ぐため、高齢者や障がい者等の社会参加を進める必要があります。
- 介護が必要な状態とならないように高齢者が自ら積極的に社会参加するため、まめまめクラブ等の「通いの場」を設けるなど、地域での生きがいつくりに取り組めるよう支援していく必要があります。
- 生涯学習や就労など高齢者や障がい者等の知識や経験を活かし、生きがいを感じることでできる機会づくりが重要となっています。

施策の方向性

- 高齢者や障がい者等が住み慣れた地域で生きがいをもって暮らし続けられるよう、支え合いの体制づくり、生きがい事業の推進を図ります。
- 生涯学習の場、就労の機会を提供することにより、高齢者や障がい者等の健康で生きがいのある生活づくりを支援します。

期待される役割

- ◆ **個人や地域で取り組んでほしいこと**
 - 健康で生きがいのある生活を送るため、地域の様々な教室や活動に積極的に参加しましょう。
 - 自分の持つ技術や知識を地域活動や社会活動に活かしましょう。
- ◆ **社会福祉協議会が取り組むこと**
 - 高齢者や障がい者等の社会参加や生きがいつくりに対する取り組みを推進します。

◆ 町が取り組むこと

- 高齢者や障がい者等の社会参加と地域での生きがいづくりを支援するため、生活支援体制の整備を推進します。
- 就業による社会参加を図るため、シルバー人材センターの活動を支援します。
- 高齢者が積極的に参加できるよう学習内容を充実させ、広く周知する等必要な施策を講じます。
- 障がいがあっても生きがいを持って社会参加できる仕組みづくりを推進します。

具体的な施策

施策名	内容
シルバー人材センターへの加入促進	<ul style="list-style-type: none"> ◆ シルバー人材センターの活動に対する支援を行い、高齢者の生きがいや健康及び地域福祉の推進を図ります。 ◆ 生きがいづくりと就労機会の拡大のため、シルバー人材センターの加入促進を図ります。
生活支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域における支え合い活動を推進することで、地域全体で高齢者・障がい者等の生活を支える体制づくりを推進します。
生きがいづくりの支援	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 障がい者の生きがいづくりを推進するため、就労支援体制等の充実を図ります。 ◆ 高齢者に生涯学習の場を提供することにより、健康で生きがいのある生活づくりを支援します。

(3) 外出しやすい環境の整備

現状と課題

- デマンドバスの運行や外出支援サービス等の実施により、地域住民の公共交通手段を確保しています。
- 高齢者や障がい者等の行動範囲を広げ、社会参加や健康づくりを進めるために、移動手段の確保等も大切です。
- 誰もが快適で暮らしやすい環境整備を推進するため、施設等のバリアフリー化を進める必要があります。

施策の方向性

- 高齢者や障がい者等の交通弱者に対する移動支援の充実を図ります。
- バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方に基づいた施設整備を推進します。

期待される役割

◆ 個人や地域で取り組んでほしいこと

- デマンドバス、外出支援サービス等の利用方法を知り、有効に活用しましょう。
- バリアを感じている人の身になって考え、行動しましょう。

◆ 社会福祉協議会が取り組むこと

- 福祉有償運送事業等を実施し、要介護者や障がいのある方の外出を支援します。
- 地域共助型生活交通の実施について検討します。

◆ 町が取り組むこと

- 利用者のニーズ、実態に応じた運行形態の検討と見直しを行います。
- 公共施設のバリアフリー化を推進するとともに、民間の取組みを支援します。
- 高齢者や障がい者等の交通弱者が必要としている移動支援の情報をわかりやすく提供します。

具体的な施策

施策名	内容
移動手段の確保	<ul style="list-style-type: none">◆ 高齢者や障がい者等の交通弱者に対する移動支援の充実を図ります。◆ デマンドバス、外出支援サービス等について利用しやすい環境づくりに努めます。◆ 住民同士が助け合い運行する共助交通の立ち上げを検討します。
バリアフリー環境の整備	<ul style="list-style-type: none">◆ 公共施設のバリアフリー化を図るため、個別施設計画等に基づき、改修を検討します。◆ 民間施設、店舗等のバリアフリー改修を推進するため、改修費用の助成を行います。

■ 基本目標 3 の成果を図る主な評価指標

評価指標	現 状 (令和3年度)	目 標 (令和8年度)
南部広域シルバー人材センターに登録している人数	348 人	400 人
生活支援コーディネーターが支援を行った住民主体の活動団体数	2 件	10 件
ふれあいサロン開催回数	67 集落 143 回 (令和2年度)	増加
外出支援サービス登録者数	104 人	110 人
デマンドバス利用者数	23,629 人 (令和元年度)	20,000 人 (令和7年度)